

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600692		
法人名	株式会社 しらかば		
事業所名	グループホームすずらん(あい)		
所在地	帯広市東11条南5丁目1番地26		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JijyosyoCd=0174600692-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成25年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①水分摂取の工夫と無理のない運動を継続的に実施することにより、下剤に頼らない排泄コントロールを徹底している。
②表情や言葉遣いを大切に、笑顔が増えるような関わりを心掛けている。
③利用者のペースや残存能力を見極め、日常生活に活かせるような働きかけを行っている。
④健康チェックや生活環境の整備に留意し、疾病の早期対応や感染予防に努めている。
⑤地域の方たちとの交流を(行事や散歩などの機会を通して)深めていけるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには公園などがあり、自然環境に恵まれた閑静な住宅街に立地する2階建て2ユニットの事業所で、エレベーターが設置されている。町内会の回覧板で「すずらん便り」を届け、事業所の状況を伝え、広報として役立てた結果、夏祭りには地域住民の参加につながった。また、事業所の広場を町内会のラジオ体操の場として提供するなど地域との関係が深まっている。事業所は、新卒職員に基本的心得や介護技術・訓練のカリキュラムに基づく介護教育をするとともに、社会人としての基礎教育を行い、感染症予防やリーダー研修など内外の研修を積極的に促し、段階に応じたスキルアップやサービスの向上ができる支援をしている。帯広市の都心部「ほこてん」の出品創作活動に3ヶ月をかけて、利用者・職員一体になって取り組んだ結果、最高賞を受賞した。この経験は、利用者の思いの実現や残存能力を引き出すことにつながっている。隣接家庭と防災協定を結び、災害の時には2軒の住民が駆けつけてくれる体制がある。職員は明るく挨拶や言葉遣いに互いに気をつけ、利用者の尊厳やプライバシーに配慮したケアを心がけている。利用者の表情も明るく、昼食時に職員と利用者が楽しく食事をしている。利用者自身ができることは無理せず任せ、やりがいを見出すよう支援したり、持っている能力を引き出すようなアプローチを行って、単にケア中心でなく、生活の充実を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を基に年間の目標を設定し、朝礼や全体ミーティングの際に確認し合いながら実践に繋げている。	法人理念と「すずらん事業所理念」が掲示されている。日々の会議を通じて職員への理解浸透がなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、利用者と一緒に清掃や各種行事に参加して交流を図っている。また資源回収の協力やラジオ体操の場所の提供を行い、ホーム内の行事にも参加してもらっている。	町内会に加入し、清掃活動や資源回収などに参加している。夏祭りなどの事業所行事に参加してもらいながら取り組みを発信し、協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて学習会を開催したり、ホーム行事の際、町内婦人部ボランティアの協力を頂き、利用者との関わりから理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告や議題を提示した中で話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。また行事にも参加してもらい、利用者の状況やサービスの状態を知って頂いている。	町内会、地域包括支援センター職員、民生委員、老人クラブ、家族が参加して年6回開催している。運営状況や防災訓練の結果などを報告して、質問や提言をもらってサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい情報交換を行っている。また、他施設の会議にも委員として参加し、協力関係を構築するよう努めている。	運営推進会議を通じて、情報の提供を受け、問題点について話し合い助言をもらっている。制度やサービス上の不明の点は、その都度質問して、回答をもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修参加や施設内委員会での話し合いで共通理解を図り、3か月に一度全職員にチェックリストを配布し、グラフ等を作成して職員一人一人に再確認してもらい、理解を深めている。	事業所内の身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、母体法人の委員会にて情報交換や課題を検討・共有している。職員はチェックリストで3ヶ月ごとに確認して、身体拘束のないケアを実践している。また「ちょっと待つて」は基本的には言葉による拘束との理解が行き届いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や施設内委員会でミーティングを行い、チェックリストやグラフをもとに防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修会を実施し、知識の習得に努め、ユニットごとや各委員会でも個々の状態を定期的に話し合い、問題解決に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務職員と連携し、ご家族の心情を踏まえ理解いただけるまで丁寧な説明して了解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時にお話を伺い対応し、投書箱も設置している。また運営推進会議でもご家族から意見を頂くことがあれば説明して承諾を頂いている。	日頃から利用者の何気ない言葉、家族の面会時等にコミュニケーションを図るとともに、運営推進会議で意見や要望を聞き取っている。出てきた要望や意見を反映させ、改善に繋げるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に問題点等を話し合い、意見や提案を聴取して検討している。	管理職と職員は気軽に話し合える状況にあり、職員は日常気づいた事をメモして会議やミーティングに持ち込んでいる。例えば作品を皆で作成し、ほこてんイベント参加する提案は職員からなされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に明記し、日頃から意見や考えを傾聴して出来る限り取り入れる取り組みを実施している。また、全員で取り組むことでやりがいを感じられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画や新人プログラムも作成し、知識の向上や教育に取り組んでいる。また、個別にあったケアの仕方も話し合いながら全員で確認し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝高齢者GH協議会に理事としても参加し、情報交換や交流を図っている。又近隣のGHとも行事などで交流を図ったり、他施設に取り組みを学びに出向いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思っている不安なことを少しでも取り除けるよう努力し、ゆとりある安心した暮らしが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事等、気軽に相談できるように面接時や電話等でコミュニケーションを取って対応することを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の出来るところ出来ないところを見極め、出来ないところだけを支援している。徐々に出来ることが増えるように声掛けし、支援するよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションやお手伝い等を通じ、本人と協力しながら一つのことをやり遂げるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時等にコミュニケーションを多くとり、身近な存在と思って頂けるよう努め、本人と家族、職員の絆を深めていけるよう行事等の呼び掛けをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの人や場を理解し、いつでも対応出来るように努めている。また、本人と触れ合える行事や面会等を通じて楽しんでもらい、関係が途切れないよう努めている。	自宅方面へのドライブ、事業所の敬老会、町内会の野遊会に参加をして馴染みの関係が途切れないように支援している。定期的に馴染みの理美容師が訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に楽しく会話が出来るよう努めている。一人一人の話に耳を傾け、会話するよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族と連絡を取り、その後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や希望を聞いて把握できるよう努力し、出来る限り対応している。	職員は、日々のコミュニケーションの中から、利用者の好みや癖、固有の動作に注目して、生活歴と合わせて検討し、意向を把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の馴染みの暮らしや生活歴を日々のコミュニケーション等からも把握し、本人の意向に沿った生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を毎日の申し送り等で職員全員で把握し、適宜対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化を見逃さないよう毎日の申し送りや全体ミーティングで課題に取り上げて対応している。	本人・家族の要望を聞き、全体会議やミーティングで話し合って介護計画を作成。モニタリングを行い、課題が生じた時にはその都度更新して、現状にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や変化を生活記録等に記載し、個々の訴えも傾聴し、職員間で情報を共有しながら対応の仕方を検討して対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、ご家族とも連絡を取り合いながら、協力病院や主治医と連携を取って対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの支援を受けたり、避難訓練の際に消防などの連携が取れている。ホーム行事の際には婦人部のボランティアの協力があることで散歩の時に自然な形で会話出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と連絡を取りながら、かかりつけ医の他、必要に応じて協力病院も含めて適宜受診等を行っている。	本人・家族の希望を尊重して、多くがかかりつけ医に継続受診している。近隣のかかりつけ医には必要時に職員も同行して、利用者の状況を報告して連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行い、体調不良等状況により必要であれば常に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	Dr、Nsと情報交換し、退院に向けての話し合いを行い、体制作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的にご家族、Drとの話し合いを持ち、重度化が想定できるケースは終末期の対応について何度も検討して納得できる方向を検討する。	看取りについては体制の整備が必要だが、早期に家族・本人と話し合いの機会を段階的に何度ももち、相談に応じ、付近の病院や施設の紹介をするなど、できることを契約時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを用意し、研修会にも積極的に参加している。消防署で行う普通救命講習は全員受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、地域の方にも参加していただいている。災害時にはお互いに一時避難場所として利用できるよう連携を取っている。	消防の協力で年2回の防災訓練を行い、消防が来るまでの5分間で何ができるかを確認した。地域住民と防災協定を結び、災害時には自動通報装置で住民に駆けつけてもらう体制ができています。トイレ用水、カセットコンロ、水・食料を備蓄している。	年2回の防災訓練に加えて、災害の種類・態様、発生時間など具体的状況を設定して、自主的・小規模の訓練を頻繁に行い、経験を積むとともに、成果や失敗を検討改善して、職員で共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言葉を否定せず、必ず一度受け入れてから出来ないことは説明して理解していただくよう接している。本人を傷つけないよう対応している。	利用者の言うことを傾聴するように徹底している。各職員が気づきノートに問題のある言葉遣いや状況を記録して、ミーティングで共有し改善に向けて知恵を出し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての決定は本人が出来るよう必ず声掛けして確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先する傾向にはあるが、本人のペースを保てるよう声掛けや働きかけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近隣の理髪店が来てくれるが、その他に本人やご家族の希望があれば対応している。		

グループホームすずらん(あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は職員も一緒に席に着いて共通の話題で楽しみながら食べていただけるよう努めている。食後個々の様子を見て出来る範囲で片付け等していただけるよう呼びかけている。	リクエストも聞きながら管理栄養士によるバランスの取れた食事が提供され、能力に応じ配膳や後片付けを行っている。施設内の菜園で採れた野菜・果物も食卓に上がり、利用者は職員と一緒に楽しく食事をしている。年二回の外食も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を確保できるように日中帯や食事の間に水分を摂って頂けるよう対応し、体調管理表に記録している。ひとり一人に合わせて一口大にカットするなど工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合った口腔ケアを行っている。残存機能を活かして出来るところは見守りに対応し、仕上げとして細かなところをお手伝いして清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、尿意等に気付けるようにしている。トイレ内では出来ないところのお手伝いをして自立に向けた支援を行っている。	水分、運動による下剤に頼らない支援を行ない、排泄コントロールに取り組んでいる。時々水状態で失敗もあるが咎めないで対応する。概ね尿意を職員が事前察知対応できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方へなるべく下剤を使用しないよう水分を多めに摂って頂いたり、軽めの運動を一緒に行う等して予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望に答えながらその日の体調に合わせて、気持ちよくゆっくりと入浴していただけるよう努めている。	週2回を基本として、利用者の希望や体調に合わせて、柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には、時間を置いて気分が良くなったところに再度声掛けをするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調やその日の体温を踏まえ、暖房や掛け物の調節をし、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため必ず二人以上で確認し、内服前に日付等を再確認し、個々に適した服用方法を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ペーパー折りや洗濯物たたみ等、一緒に行えるよう働きかけている。オセロやカルタ、グループ体操をして楽しんでいただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温を見て外気浴や散歩を実施している。行事等計画を立ててドライブに出掛けたり、本人の希望を伺い買い物にも同行している。	散歩・外気浴や畑仕事、イベント参加など日常的に外出や日に当たる機会を設けている。計画的に季節のドライブ、5月お花見、イチゴ狩り、6月すずらん祭り、7月菖蒲見学、8月七夕まつりなどを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して施設で管理している。自己管理できる方は少量の小遣いを所持している。本人の希望を伺って買い物に同行することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の利用が出来るように支援している。会話や聞き取りが困難な方には職員が対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の季節にあったポスターを壁に張り出している。カレンダーで月日を見て感じていただいている。食事中は音楽を流し、穏やかな雰囲気を作っている。	居間は気になるにおい・音がなく、明るさ、湿度が適切に管理され居心地の良い空間になっている。職員は利用者の見当識の保持を重視し、居間に行事についてまとめた模造紙など季節を感じる飾り物を配置し、カレンダーを使って「今日は何日?何の日」と話題を積極的に振り向けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は居室やリビングで過ごされ、TVなどを他利用者と一緒に観て会話されたり、お昼寝をされたりもしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用したり、思い出の写真を飾り、その方に合った居場所作りを行っている。台所は対面式になっているため、出来る方はカウンターまで下膳してもらっている。	利用者は仏壇や位牌、家族の写真、馴染みの小物類を持ち込み、居心地の良い居場所になるように支援している。花壇で咲いた好みの花を部屋に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置。 台所は対面式でカウンターまで下膳していただき、トイレはわかりやすく張り紙をしている。		